

ひろしまの森づくり事業（交付金事業）推進の考え方（第3期：H29～H33）

市町名：世羅町

1 要旨

世羅町の森づくり事業(交付金事業)を実施するにあたって、「ひろしまの森づくり事業に関する推進方針」を踏まえ、世羅町の里山林を取り巻く現状と課題を念頭に第3期の推進方針を定め、これに基づいて森林の持つ公益的機能を持続的に発揮できる取り組みを行うこととする。

2 里山林の現状と目指す姿

区分	現状	課題	目指す里山林の姿	取組む内容
景観保全林	里山林の手入れ不足や竹林化により、景観の悪化が生じている。	地域の主要道路周辺の里山林も荒廃していることが当たり前になっている。森林からもたらされる景観を地域で守るような体制がなくなっている。	景観保全への意識が高まるような場所の里山林整備と、これを契機とした地域による自主的な景観保全活動の促進を目指す。	町内の主要道路沿線でまとまりのある里山林整備を実施し、地域住民への意識啓発を行う。
防災減災林 (特認含む)	災害の危険性がある里山林が増加している。	土砂災害特別警戒区域周辺の里山林が手入れ不足になっている。	地域が主体となって適地適木・適正管理がされることで、高い土砂災害防止機能が維持された里山林を目指す。	町内の土砂災害特別警戒区域を含む流域の森林等について、森林整備を行うとともに、地域住民による自主的な森林管理の意識醸成を行う。
地域資源活用林 (特認含む)	地域の資源である森林の風景やランドマーク、森林とふれあう場所が荒廃している。	地域の資源を管理する仕組みや住民団体がなくなりつつあり、自主的・継続的な取り組みが困難となっている。	水源涵養や県土保全に加えて、世羅町特有の景観を継続的に維持するとともに、世羅町独特の歴史や文化を育むことのできる里山林を目指す。	世羅町特有の風景やランドマークとなる場所について、地域住民等が自主的に活動するために、地域の体制づくりから支援を実施し、森林とふれあう体験会も積極的に提案する。
環境緑化保全林				
鳥獣被害防止林	農地周辺の山林について、手入れ不足や竹林化により鳥獣の隠れ場所が増加している。	シカやイノシシなどの鳥獣被害が拡大しているため、鳥獣害対策としての里山林整備が課題となっている。	里山の手入れ不足等により、シカやイノシシなどの野生動物が人里まで活動域を拡げていることから、人と野生動物の棲み分けがされるなど、一定の緩衝機能をもった里山林に整備し、野性動物との共生を目指す。	効果が早期に実現するために、自主的な体制が整っている所を集中して実施する。

※区分は市町が森づくり事業に取り組む方針により選択して記載すること。

3 森林を守り育てるための取り組み

区分	現状と課題	目指す姿	取組む内容
<p>森林を守り育てる体制</p> <p>森林整備を行う者 (森林ボランティア団体) (住民団体等) (小規模林業経営者)</p> <p>森林整備を助ける体制 (森林資源の継続的利用)</p>	<p>・森づくり事業を活用するボランティア団体は財務基盤等が脆弱であるため、引き続き森づくり事業を活用して活動を継続したい旨の要望が多い。 【森林ボランティア団体数: 2団体】</p> <p>・薪ストーブ用の薪やしいたけ原木、侵入竹の整備などを目的とした住民団体が増えつつある。現在は他事業を活用しているが、これらの団体は財務基盤等が脆弱であるため、森づくり事業での支援も必要となる可能性がある。 【住民団体数: 4団体】</p> <p>【小規模林業経営者: 該当者なし】</p> <p>・薪ストーブ所有者の木材需要はあるが、その他の需要の仕組みが構築できていないため、森林資源の継続的利用は促進できていない。</p>	<p>・ボランティア団体が増加し、自らの収入と会費で運営されながら、森づくり事業を活用し森林保全活動を展開することにより、町内の広い地域での森林整備活性化に寄与している。</p> <p>・住民団体が増加し、自らの収入と会費で運営されながら、森づくり事業などを活用し、それぞれの地域の森林整備を自主的に行っている。</p> <p>・兼業ではあるが、小規模林業経営者が誕生し、森林資源を循環できている。</p> <p>・地域住民や町内施設での木材需要が高まり、森林資源の継続的利用のための事業が展開されている。</p>	<p>・里山保全活用支援事業や森林・林業体験活動支援事業を活用し、財務基盤の安定に向けた取組みの支援や、次世代に活動を引き継ぐための活動の支援を行う。 【森林ボランティア団体数: 4団体】</p> <p>・里山保全活用支援事業や森林・林業体験活動支援事業を活用し、財務基盤の安定に向けた取組みの支援や、それぞれの地域住民がより積極的に活動に参加できるように支援を行う。 【住民団体数: 8団体】</p> <p>・新たな森の守り手について、町内外を問わず模索し、安定経営のための基盤づくりについて支援する。</p> <p>・薪ストーブなど森林資源を活用する機材導入の促進や、町内施設での木材利用の促進について検討する。</p>
<p>取組への理解促進</p>	<p>住民への説明</p> <p>参加拡大による理解促進</p> <p>事業の理解</p>	<p>・ひろしまの森づくり県民税の存在や、事業名、目的、事業内容などをまだまだ周知できていない。</p> <p>・森林・林業体験についての情報発信力が乏しく、森づくり事業に参加できる機会を提供できていない。 【事業実施の広報看板設置: 3箇所】</p>	<p>・町民が森づくり県民税の用途や効果、実績を理解している。</p> <p>・町民が欲している、森林・林業体験に関するイベントや活動などの情報が簡単に入手できる。</p> <p>・県と連携し、町広報誌を活用して事業の実績や効果を町民に広く発信する。 ・町内での事業実施状況についても広報誌やケーブルテレビ等で発信する。</p> <p>・ひろしま「山の日」県民の集いを開催し、森林・林業体験活動への参加機会の提供と、森づくり事業の周知を行う。</p> <p>・事業実施箇所へ積極的に森づくり事業実施の広報看板を設置する。 【事業実施の広報看板設置: 10箇所】</p>